

市の人口と予算 (2月1日現在)

人口・世帯 ()内は前月比/前年同月比	
合計	= 164,431人 (+ 59/+2,634)
男	= 81,603人 (+ 0/+1,242)
女	= 82,828人 (+ 59/+1,392)
世帯	= 66,112世帯 (+ 38/+1,667)

予算	
一般会計	= 426億7,192万5千円
特別・企業会計	= 350億7,160万1千円

特集：緑の取り組み

いつまでも

「都心から一番近い森のまち」

であるために

平成17年8月、「つくばエクスプレス」(以下:TX)が開通しました。

流山はもともと緑豊かな地域ですが、TX沿線の区画整理が進むにつれて、市内の緑地は減少しています。昨日まであった緑が伐採されてしまう光景を目にして、大きな衝撃を受けた方も少なくないと思います。区画整理は、沿線に宅地を整備して、TXの利用者を増やそうという「宅鉄法」(2面参照)に基づくものですが、流山市では失われた緑を取りもどすため、市民や企業と一体となって、緑の都市づくりに取り組んでいます。

失われた緑を回復し、いつまでも「都心から一番近い森のまち」であるために、さらに緑を増やします。これが流山市の進めるまちづくりです。その核となる「グリーンチェン戦略」を中心に、緑の取り組みについてご紹介します。

圖みどりの課 ☎7150-6092

どうやって
増やすの?

どうして
減ってしまうの?

市内には、新川耕地沿いに続く斜面樹林や総合運動公園の緑をはじめ、市野谷の森や東深井地区公園(古墳の森)などまとまった緑が数多く点在しています。

また、身近な緑として公園や市民の森も、市民の皆さんに憩いとうるおいを与えています。

これらの緑を残し、人にやさしい緑に包まれたまちであるためには、多額の費用はもとより市民の皆さん一人ひとりの緑を守ろうという意識とご協力が必要です。

「ふるさと緑の基金」へご協力を! ~寄付は税金の控除にもなります

市では現在、10カ所の公園と17カ所の市民の森を地権者の方からの借地によって一般に開放しています。しかし近年は、相続などの地権者の皆さんの事情によって、借地を継続できなくなる場合も出ています。市では、次世代へ緑の流山を残すために、これらの土地を買い取ることを目的とした「流山市ふるさと緑の基金」を設けています。市財政から基金への積み立てを行うほか、市民の皆さんにもご協力をお願いしています。現在、基金の積立額は約4億4千万円となっていますが、ここ3年間では約1,650万円のご寄付をいただいています。

圖みどりの課 ☎7150-6092

【基金への寄付は節税にも】

基金への寄付は、所得税と住民税の控除対象となります。平成20年の税法改正により寄附金控除が拡充されています。寄附金控除については松戸税務署(☎047-363-1171)または市役所市民税課(☎7150-6073)までお問い合わせください。

市長のひとこと

開発により失われた緑を回復するのは、もちろん容易ではありません。しかし、緑は流山の財産であり、まちの価値を高めます。50年、100年後を見据え、今やらなければ将来、流山は「森のまち」ではなくなってしまいます。

昨年からは、森づくりの第一人者である横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生に、流山市のまちづくり顧問に就任していただきました。宮脇先生のご指導を受けながら、市内各所に小さな森づくりを始めます。緑あふれる流山を未来に引き継ぐため、市民の皆さまのご協力をお願いします。



どうして減ってしまおうの？



造成中の流山おおたかの森駅南口(平成18年2月)



森林伐採後のイメージ



緑豊かな森林

2 失われた緑は このままですか？

市内の広い地域で緑が失われ、宅地として開発されてきたのは事実です。しかし、**流山市はこの状況を黙って見ているわけではありません。**市では「流山グリーンチェーン戦略」を始めとした緑化施策を進め、新たに造成された住宅地や市街地にもたくさんの緑が整備されるような仕組みを作っています。また行政が主導の政策だけでなく、市民、企業、市が連携して緑の都市づくりに取り組んでいるという大きな特徴があります。



「土地区画整理事業」により更地になった土地

1 流山の緑はなぜ 減っているのですか？

つくばエクスプレスの計画が決まり、その沿線の地区では「土地区画整理事業」を行い、「宅鉄法」に基づき鉄道用地もその区画整理によって生み出すことになりました。

「土地区画整理事業」とは、**総合的な視点から計画を立て、開発や整備を行っていくために、法律によって定められるものです。**従来の市街地を整備したり、雑木林や水田などに新たに市街地をつくるときに適用されます。健全な市街地をつくり、質の高い住宅地を供給していくためには土地の区画をきちんと整えるとともに、道路や公園などの公共施設を新たに設置したり、改良したりする必要があります。

TX開通に伴う市内の「土地区画整理事業」では、緑豊かであった土地が切り開かれ、宅地の造成が行われたため、緑が減少することになってしまいました。

また、TX沿線の開発区域以外でも、多くの市民の方がお住まいの市街化区域では、宅地造成などにより緑が減少しつつあります。この**市街化区域で緑を残すには、区域内の森林を市が買い取るなど多額の費用**がかかります。

「宅鉄法」とは…

正式な名称は、「大都市地域における宅地開発及び鉄道整備の一体的推進に関する特別措置法」といい、新たに鉄道が整備されることで、大量の住宅地の供給が必要とされる地域で、宅地の開発と鉄道の整備を総合的に行い、整備事業を着実に、そして円滑に推進することを目的とした法律です。

3 緑の都市づくりを進めると、 こんな街並みが生まれます！

まち全体で進める、「緑に価値をおいた」環境づくりはすでに始まっています。



高木が並ぶ流山おおたかの森駅南口都市広場



緑の多い集合住宅



緑陰の美しい住宅街

どうやって増やすの？

グリーンチェーン認定について

流山グリーンチェーン戦略では「グリーンチェーン認定」を設けており、これまで5年間で約2,000戸の住宅（マンションなどの集合住宅を含む）がこの認定を受けています。認定を受けると、以下のような特典があります。



グリーンチェーン認定マーク

認定については、みどりの課（☎7150-6092）までお問い合わせください。

① 緑に関する講習会に優先的に参加できます

市では緑に関するさまざまな講習会を開催しています。しかし、応募数が多く、抽選での参加になっているのが実情です。そこで、グリーンチェーン認定を受けると優先的に参加できる講習会を開催しています。

② 認定物件を購入する際のローン金利を優遇

グリーンチェーン認定を受けた不動産物件を購入する際に、市内の金融機関によっては、金利の優遇を受けることができます。対象の住宅をご購入する際には、それぞれの金融機関にお問い合わせいただき、ご検討ください。

③ 生け垣を設置する際の補助金の限度額がアップします (4面参照)

INTERVIEW

流山に住むきっかけは緑の多さ

鶴田泰士さん・舞さん(市野谷在住)

平成16年、結婚と同時に南流山のマンションを借りて流山市民になりました。お互いの職場へアクセスが良いのが選んだ理由でしたが、流山の緑の多さと市が進めるグリーンチェーン戦略を知り、平成19年に現在の家を購入して流山を終の住処に決めました。



この家は、街区全体でグリーンチェーン認定を受けている物件です。庭木の剪定や消毒は自治会全体で契約するなど、個人であまり負担のかからない工夫をしています。それでも年に数回は自分で剪定しなければなりません(笑)。緑の多い街並みにするには、私たち市民の役割も大きいと思います。

「緑が多いところを散歩するのは気持ちがいいです。妻も私も自然の中で育ったので、生活に緑は欠かせません(泰士さん)」「都内からつくばエクスプレスや常磐道で帰るとき、流山に入ると明らかに緑が多くなります。緑をつなぐ遊歩道もあるといいですね(舞さん)」

グリーンチェーン戦略で緑を増やす！

グリーンチェーン戦略のしくみ

「流山グリーンチェーン戦略」は、市民、企業、市が連携して、点の緑を線に、そして面として市全体に広げていこうという取り組みです。では、それぞれの家や建物では、具体的にどんなことをすればよいのでしょうか？



高い庭木を植えることで外壁の温度上昇を防ぐとともに、窓から緑を眺めることができる

市では地球温暖化対策、ヒートアイランド現象の抑制を念頭に、「熱をいかに抑えるか」、そして熱を抑えるために「いかに緑の力を最大限に使うか」にポイントをおいた、「7つの指標」を掲げています。今回は、なかでも重要な3つをご紹介します。

① 道路に沿って大きくなる木を植えよう

道路沿いに背の高い木があると、日陰ができて夏の暑さをしのぐ空間が生まれます。また、道路の表面温度の上昇を防ぐ効果があります。

② 道路沿いには生け垣をつくろう

夏は、アスファルトの照り返しが厳しくなります。生け垣があると、道路からの照り返しの熱が建物に当たるのを防ぎ、建物の温度が上がるのを抑えられます。

③ 庭にはたくさんの植物を植えよう

照り返しは道路からだけではありません。敷地内を緑で覆うことで、駐車スペースや地面からの熱も防げます。また庭にたくさんの緑を植えると、外壁の温度上昇を防ぐとともに、室内の快適性もあがります。

そして、①～③を満たした住宅や建物が増えると…

【道路から見ると緑がいっぱいになります!】

☺ 効果1: 緑豊かな街並みが生まれます。

【道路や地面の温度が下がります!】

☺ 効果2: ヒートアイランド現象を抑制します。

【たくさんの樹木が二酸化炭素を吸収します!】

☺ 効果3: 地球温暖化の防止になります。

市民一人ひとりがグリーンチェーン戦略を実践することで、「緑に包まれ、地球環境にもやさしいまち、流山」が生まれます。

次世代に素晴らしい環境を引き継ぐ、市民参加型のグリーンチェーン戦略

千葉大学環境健康フィールド科学センター 助教 近江慶光

ヒートアイランド現象、地球温暖化といった21世紀の都市問題や地球規模の環境問題に対して、公園や街路樹といった行政が整備できる緑地だけでは、もはや対処できなくなってきました。

「流山グリーンチェーン戦略」は、流山市民の皆さん一人ひとりが生み出す快適な居住環境が広がっていくことで、21世紀の抱える課題を少しでも解決し、市域全体を価値のあるものにしていくものです。このような戦略が仕組みとして確立されている自治体は全国でも少なく、市民の皆さんの理解なくしてはできなかったものと思います。

さらにTXが開通し、新しい市街地が生ずるといって、流山市にとって非常に大きな転換期に、市の発展と環境の改善を両立させる、このような仕組みが導入されたことも大きな意味を持ちます。

流山市の環境がよりよいものになるよう、また次世代へさらに素晴らしい環境を引き継げるよう、「流山グリーンチェーン戦略」に関心を持っていただき、ご協力していただければと思います。



他にもあります、緑の取り組み

流山市ではグリーンチェーン戦略以外にも、緑を増やすために緑の施策を掲げ、花や緑に関連する事業を行っています。 圃みどりの課 ☎7150-6092

生け垣設置の補助金

ブロック塀を緑の生け垣に

市では、「みどりのまちなみ整備事業」として、市内に住宅を所有して住んでいる方を対象として、生け垣を設置する際に補助金を交付しています。

補助制度では、設置する生け垣1メートル当たり4,000円を上限として、設置にかかる経費の半額を補助します。枯れた既存の生け垣を撤去し、植え替える方には最大3万円、新たに生け垣を設置する方には最大4万円、生け垣の設置と同時にグリーンチェーン認定を受けた方には最大5万円が交付されます。



生け垣の続く街並み

申請に当たっては、流山市税を完納していること、生け垣の全体延長が3メートル以上であること、生け垣の設置工事前であることなどの条件があります。事前にみどりの課までお問い合わせください。

花と緑のボランティア

身近な公園の緑を市民の手で…

花や緑でよりよいまちづくりのお手伝いをしていただく制度が「花と緑のボランティア」登録制度です。

現在は、個人・団体を合わせて約350人の方々に登録していただき、身近な公園の清掃や草取り、草花の手入れなどで、まちづくりに携わっていただいています。

■ボランティア登録を募集中!

市では、花と緑のボランティアを随時募集しています。ボランティア登録者には、活動のサポートとして市で保険加入をさせていただきます。また、登録者を対象にした花に関する講習会も実施しています。



花を植えるボランティアの皆さん

グリーンフェスティバル

市が主催する花と緑のお祭り

「都心から一番近い森のまち」をアピールするために、毎年ゴールデンウィークに流山おおたかの森駅南口都市広場を中心に「グリーンフェス



大勢の人でにぎわうグリーンフェスティバル

ティバル」を開催しています。期間中は、来場者が楽しめるショーや体験コーナーだけでなく、市民の皆さんの力でつくり上げる「花絵」づくりや、花苗販売などのイベントを通して緑に触れ合うきっかけづくりをしています。

小さな森のある学園づくりプロジェクト

学校を緑でいっぱい!

小・中学校の校庭に常緑樹を植えて森をつくろうという「小さな森のある学園づくりプロジェクト」。昨年は、西深井小学校で、校庭の一部の200平方メートルの土地に25種類、約600本の苗木を子どもたちや保護者、教職員などが植樹しました。

この事業は、森づくりの第一人者として知られ、国内外1,700カ所以上で4千万本を超える植樹を指導されている、横浜国立大学の宮脇昭名誉教授の指導のもと実施しているものです。平成23年度は、鱈ヶ崎小学校と南流山中学校でPTAなどとの協働により森づくりが進められる予定です。



西深井小学校での苗木の植樹

まちなか森づくりプロジェクト

流山の風土にあった樹木を植える

平成23年度より始まるプロジェクトで、公園の一部や公共施設をはじめ、用水跡地や道路用地などのちょっとしたスペースにも新しい手法を取り入れて、森づくりを行うというものです。

流山周辺の地域には従来、シラカシやタブノキといった常緑広葉樹(冬の間も葉の落ちない樹木で、葉が広い種類のもの)が自然に生えていたといわれています。森づくりプロジェクトでは、こうした土地由来の多種類の苗木をぎっしりと植え、まちなかに小さな森を生み出します。さまざまな樹木が共生する森は、木が育てば草刈りなどの維持管理の手間が少なくすむといわれています。

INTERVIEW

オープンガーデンの楽しみは、緑を通してコミュニケーションが生まれること

ながれやまガーデニングクラブ花恋人会長 小高静子さん

25年前に東京から流山に引っ越してきました。もともと緑が好きだったので、庭をつくれる広さのある物件を購入しました。庭いじりを続けるコツは、安くて育てるのが簡単な樹木や植物を植えること。自分の思うようにバサバサ切れますからね(笑)。

ガーデニングクラブは、今年で設立7年目になります。クラブの活動のメインは、会員がそれぞれの庭を公開する5月のオープンガーデンです。会員は秋から種を撒き、苗を植えて準備を始めます。昨年は、期間中の3日間で、全会員宅を合わせると延べ約1万人の方たちが、市内だけでなく、近隣の市からいらっしやいました。このイベントの良さは、緑を通じてコミュニケーションが生まれることです。植物を話題に会話が生まれ、まちを散策するきっかけにもなります。庭づくりの腕を上げるには見られることも大切ですよ。

流山は緑が多くて大好きです。このまちをもっと緑豊かにするには住民の努力も必要です。ガーデニングは楽しみながら緑を増やせるので、ぜひ皆さんにも始めてほしいと思いますね。



「忙しい人が多すぎます。緑にふれることで、生活自体を見直してほしいですね」と小高さん

